

第7回各務原市特別支援学校建設基本構想・基本計画策定委員会 議事概要

日 時 令和3年3月4日（木）午後3時00分より
 場 所 各務原市役所 産業文化センター4階第2学習室
 出席委員 出口和宏委員長、松村齋副委員長、田代真理子委員、安田ゆかり委員、
 関エリコ委員、大谷弘委員、木全かおり委員、兒玉哲也委員
 欠席委員 加藤英優委員、安田寿之委員

1. 委員長挨拶

2. 議事

①パブリックコメントで頂いたご意見について

②答申について

議事録（要旨）

委員長挨拶	
委員長	前回までの会議で基本構想・基本計画の素案が固まり、事務局にパブリックコメントにかけてもらった。市民の方からご意見をいただいているので、今日はその対応について確認していきたい。

議事 ①パブリックコメントで頂いたご意見について

資料1 パブリックコメントで頂いたご意見

資料2 基本構想・基本計画（案）

事務局説明	
・パブリックコメントで頂いたご意見に対し、市教育委員会の考え方について説明を行った。 ・基本構想・基本計画（案）について説明を行った。 ・開催した市民説明会について報告を行った。	
主な意見及び質疑応答	
委員長	説明に対して、意見等あれば伺いたい。
委員	「ご意見5」の「各学校の『特別支援学級』の教員が手薄になり、特別支援学級を希望する児童生徒も、特別支援学校に集約していくという流れになる心配があります。」について、特別支援学校に通わせることに抵抗のある保護者がいるのは事実である。市教育委員会の考えとして、「特別支援学校への就学は、大学教授や医師等の専門家から構成される教育支援委員会において、児童生徒一人一人に対して望ましい教育環境について審議し、本人や保護者との合意形成の上、決定されるものである」

	と書かれているので、問題はないと思うが、現場で、保護者や子どもを不安にさせることがないように、色々な意見や話を十分に聞いてほしいと思う。
委員長	学校ができた時には、その点について十分に配慮してもらいたいと思う。
委員	「ご意見２３」において、センター的機能について述べているが、現在の各務原特別支援学校では県立とは違った市立の良さが出ていると思う。卒業してからも追指導が丁寧につき、移行支援で市の行政や地域等につないでいく。そういった市立ならではのセンター的機能の強化を進めてほしい。
委員	長年、就学先に対して心配を抱いている保護者や子どもがいて感じていた。この新しい学校ができることで、保護者や子どもに新たな就学先ができることは利点であると思う。子どもの実態や保護者の合意によって就学が決まり、無理やり就学ということはない。文科省や県の支援はゆるぎないものであってほしい。
委員長	保護者や子どもにとっては就学先の選択肢が広がったということは大きいと思う。
委員	現在の各務原特別支援学校は知的障がいを対象とした高等部のみのため、小学部、中学部ができ、肢体不自由や病弱の児童生徒も通えることはとても良いと思う。各務原市の保護者や子どもには安心できる環境が整うと思う。同じ名前でも機能は移転されるがとても大きな変化があり、子どもや保護者には喜ばしいことだと思う。岐阜清流や西濃のような専門学科を持った高等特別支援学校とのバランスを考えると、今回、新しい各務原特別支援学校ができることによって役割分担が明確になり、良いと思う。
委員	市民の方々がとても熱心に新しい学校について色々な意見を述べており、とても良いと感じた。ソフト面の教員については、今後の検討が必要であると思う。専門的な知識を持つスタッフを県などから支援してもらえると良いと思う。また、地域の方々などに開かれた学校とすることで、敷居や偏見がなくなるように、ソフト面を強化してほしい。現各務原特別支援学校について、設立背景や思いを汲んでいただき、現各務原特別支援学校のように親しみやすく、地域に開かれた学校にしてほしい。また、今後もマイナスなご意見や厳しいご指摘に対しても丁寧に対応し

	てほしい。
委員	市立の良さを出してほしい。小学部、中学部、高等部があり、肢体不自由や病弱の障がいを対象とする学校は県立しかないので、市立の新しい学校ができることは大きいと思う。県立と市立の住み分けがいい意味で機能してほしい。
副委員長	各委員や市民の方々に多くの意見を頂けたことを感謝したい。保護者からの強い願いのあった事業である。7回にわたる委員会によって十分な議論ができたと思う。また、事務局にも感謝したい。整備に向けて、委員や市民の意見をこれからも反映してほしいと思う。
委員長	パブリックコメントで頂いたご意見に対する市教育委員会の考え方については、原案のとおりで良いか。
一同	(異議なし)
委員長	それでは原案のとおりにしたいと思う。

議事 ②答申について

資料3 答申書(案)

委員長説明	
・ 答申書(案)の説明を行った。	
主な意見及び質疑応答	
委員長	答申書(案)について、何か意見等あるか。
一同	(異議なし)
委員長	それでは、私から代表して市教育委員会に提出する。最後の会議なので、委員一人一人に感想を伺いたい。
委員	各務原特別支援学校は、障がいのある子どもを義務教育終了後、受け入れられるところが市内に無かったためにできた経緯がある。小学部、中学部は無く、重度の知的障がい、肢体不自由や病弱の障がいがある子どもは市外に行かざるを得なかった。市内に重度の知的障がいのある子どもが通える学校をつくってほしいと訴え続けていたので、今回その願いが届け嬉しく思う。また、肢体不自由や病弱の子どもも受け入れられる

	ので、ともに喜んでいる。予定通り開校できるように整備を進めてほしい。ソフト面はこれから４年で十分に整備してほしい。障がい特性に合った学び、専門性のある教育が受けられるように整備を進めてほしい。また、障がいのことや学校のことを地域の人に知ってもらう、心のバリアフリーが重要であると思う。学校ができて終わりではなく、できてからが重要であると思う。障がい等について知らないことで起きる偏見を無くしていきたいと思う。今後も素晴らしい学校になるように支援したい。
委員	計７回の会議で、主にハード面の検討を中心に行ってきた。今ある知識や情報等を活用してベースは整えることはできたと思う。今後は、想定外のことに柔軟に対応し、事業が滞ることなく進んでほしいと思う。今後もサポートしていきたいと思う。
委員	羽島特別支援学校は、開校までに１０年かかった。ハードは肅々と進め、土地の問題等には柔軟に対応してほしい。ソフト面で保護者が心配しているのは教員についてだと思う。教員の配置については県との調整は進んでいる。市立としてできるので、これからの４年間で、各務原市の小中学校の先生方に例えば県立の特別支援学校に異動して勉強してもらう期間をつくることは、将来的に小中学校の特別支援学級に生きてくると思う。これからも協力していきたいと思う。
委員	新しい特別支援学校ができることを踏まえ、これからの４年間に各務原市の小中学校の先生方が県立の特別支援学校で学べ、開校してからは県立の特別支援学校と交流が盛んに行われると良いと思う。各務原に勤めれば特別支援教育が学べるという風土が培われていくと嬉しい。
委員	各務原特別支援学校では、昨日の雨によって校長室で雨漏りがあった。そうした際、市教育総務課にすぐに対応してもえるのは市立の利点だと思う。一方で、県立との違いを感じるところもあり、ICTに関する予算等は少ないと感じている。
委員	保護者は、教員の資質・専門性を重要視している。教員と子どもの関係以外にも保護者や地域の協力がなくては良い学校とはならないと思う。また、市内の小中学校に通う子どもと特別支援学校に通う子どもが交流できると良いと思う。
副委員長	医療的ケア児の対応をした経験があり、保護者の思いに寄り添うには、教員が強い意志と誇りを持つことが必要であると感じている。新しくで

	きる学校においても、教員が強い意志と誇りを持てるようになってほしいと思う。基本構想・基本計画は委員や地域の人と十分に練れたと思う。
委員長	今日出席をしていない委員にも協力してもらったことを感謝したい。県立とは違う独自の学校ができることに期待している。ハード面はもちろん、これからはソフト面の整備に力を入れてほしい。

3. その他

（事務局）計7回にわたる委員会でのご審議に感謝している。今後、各務原市教育委員会や各務原市に報告し、最終的に基本構想・基本計画として確定させ、公開する。皆様には、今後とも各務原市の特別支援学校整備事業を見守っていただきたい。